

原子力発電所に関する特別委員会会議日程

平成23年6月21日午前10時00分

郡山市男女共同参画センター

開 議 午前10時

出席委員

委員長	渡 辺 起代一	副委員長	塚 野 芳 美
1 番	山 本 育 男	2 番	中 野 正 幸
3 番	渡 辺 英 博	4 番	高 野 泰
5 番	宮 本 皓 一	7 番	黒 沢 英 男
8 番	高 橋 実	9 番	堀 川 一 也
10 番	猪 狩 弘 二	11 番	渡 辺 三 男
12 番	関 友 幸	13 番	三 瓶 一 郎

欠席委員

6 番 渡 辺 晁

説明のための出席者

町 長	遠 藤 勝 也
副 町 長	三 瓶 博 文
生活環境課長	緑 川 富 男
生活環境課 課長補佐	渡 辺 弘 道
生活環境課主任 兼 原子力 安全対策係長	佐 藤 邦 春

職務のための出席者

議	長	猪	狩	利	衛
事	務	局	長	角	政
事務局庶務係長		原	田	徳	仁

#### 付議事件

- 1 原子力発電所に関する特別委員会における権限を東日本大震災に限り全員協議会に一任することについて
- 2 その他

開 会 （午前10時00分）

○委員長（渡辺起代一君） では、皆さん、おはようございます。

ただいまの出席委員は14名であります。

さらに、職務出席者として、議長、事務局長となっております。

それでは、ただいまより原子力発電所に関する特別委員会を開会いたします。

○事務局長（角 政実君） ただいま資料をお配りしました内容の中に一部訂正ございます。申しわけございません。

2段目の企画課の一番下段のほうでございます。復興班でございますが、「横須賀幸一」となっておりますが、「田中司郎」の誤りでございますので、訂正しておわび申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

〔「何、どこ」と呼ぶ者あり〕

○事務局長（角 政実君） 申しわけありません。2枚つづりの中で、富岡町災害対策本部組織体制（6月1日～）という内容でございます。そのうち、2段目の企画課、3段目の復興班、班長「横須賀幸一」となっておりますが、「田中司郎」の誤りでございますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○委員長（渡辺起代一君） よろしいですね。

それでは、議論に先立って、町長が出席されておりますので、町長よりごあいさつをいただきたいと思います。

町長。

○町長（遠藤勝也君） 皆さん、おはようございます。

本日は、原子力発電所に関する特別委員会、各地からご集合いただきまして、大変ご苦勞さまでございます。前回の全員協議会で、5月10日と記憶しておりますが、その後40日ほど経過をしてございますけれども、ですからその5月10日以降の原子力に関係する話をさせていただきたいと思います。

ご案内のように、原発事故につきましては毎日毎日一進一退の報告、メディア等々でも皆さんおわかりだと思いますが、メルトダウンとか、メルトスローとか、我々には想像もしなかった最悪の事象が報告され、当初の我々情報から見ますと、大

変情報が不足と同時におくれがちで、しかも正確性欠いていたということは否めない事実でありまして、まさに国あるいは事業者からの我々の立地地域の自治体に対する情報が的確でなかったのかと、今この場で指摘するところでございます。

工程表、道筋を発表してから、ステップワンが残る、来月7月でステップワンが終わるところでございまして、ステップツーにつきましては来年の1月ということで、つい数日前は工程表については工程どおり変更ないということで一応は安堵はしているところでございますが、ただ私どもは工程表どおりというそのものについては、決して満足するわけでありません。1カ月も2カ月も前倒して、早く冷却停止と、いわゆる冷温状態に持っていただきたいというふうに思っているところでありますが、ただ毎日、毎日のテレビとか新聞の報道を見ますと、いわゆる高線量の汚染水、あるいは高線量の瓦れき等々の処理については、大変現状は極めて厳しい状況が我々にも伝わってまいっているところでございます。

きのうおとこのいわゆる汚染水の状況についても、セシウムの吸い取りが5時間でもう結局機能がとまってしまったと。これはなぜかと。これはもう高度な濃度の濃いものが、結局それに対応できなかったということも我々としては非常に衝撃的な報道でありまして、ただただ今後この汚染水の浄化がいかに関滑にこれ経過をたどっていくのか、これをしっかりとしていただかないと、各プラントのいわゆる冷却水を結局この浄化によって確保するわけでありまして、この冷却水を冷却装置として機能して初めてこの冷却のシステムが稼働するわけありますから、これが今後の非常に関心を持って見きわめていかなければならない状況でございます。

1号機、あるいは2号機、3号機、それぞれ事故の現状は極めて厳しい状況ではありますが、ただ少なくとも少しずつであります、作業の状況には、大分前に進んでいるような状況は見えてはきております。4号機についての使用済み燃料プールの、いわゆるプールの強度を増して支える支柱の問題も今週できましたが、そういう中でどうかきょうは事業者も見えておりますけれども、一日も早く我々にこの冷温状況に持っていくような、非常にだれでもわかりやすいような、そういう取り組みを、結果を出していただいて、ああ、いよいよこれから安定化、あるいは冷温状況にもう推移していくのだなということを期待しておるし、またそれをぜひなし

遂げていただいて、我々立地地域、警戒区域の我々の富岡町については、特にこの状況が前倒ししていただかないと、いつ町に帰るのか全く見通しが立たない状況にございます。

そういう中で、毎日の空間線量を、私どもが情報入っていますが、今残念ながら数値は全然下がっておりません。役場の線量は6.0でもうずっと1週間ほど動きません。これが下がっていかないと、ほかの町内一円のモニタリングの数値が全部高いままに推移していくのであろうと思っていますし、さらに加えてこの土壤の汚染、それから水質、植物、これについては全く、私はいつも国の、あるいは政府に申し上げているのですが、工程表を出してくださいと、事業者のほうではそういう冷温状況に持っていく工程表出してもらったのだけれども、国においてはそのモニタリングの数値を工程表出してから並行して出してもらわないと困ります。来年の1月以降に環境調査をするというそのような状況ではこれから先が全く不透明だし、不安を募るだけでありまして、これ強く強く今まで何回もいろんな場をお願いしてきました。最近、文部科学省で富岡町の駅周辺のメッシュを組んでもう調査に入ったと思いますが、これからさらにまた町内一円にメッシュを組んで、富岡の各地点、地点のそれぞれの土壤調査、あるいは水質、あるいはまた植物についてのこれは速やかに情報を提供していただくように申し上げたところでございます。

そのようなことで、空間線量だけでなく、その他の状況がわからないままに今後の先の見通しが全く不透明な中で、我が町の今後の復興計画当然ありますけれども、ぜひとも事業所のほうでもいち早く国より先に作業していただくという、そんな状況もあっていいのではないかなと、そういうふうに思っていますので、ぜひお願いしたいと思っています。

その他一時帰宅とか、あるいは車の持ち出しとか、あるいは屋根の修理とか、その他いろんな問題についても、これは県の災害対策部に常に言っていますが、なかなか思うように答えが出ないものですから、私は直接、政府にすべともう直接交渉して当たってきました。それですから、屋根の修理についても、あるいは一時帰宅についてもバスの町独自の10台を確保して、独自で今度一時帰宅をさらにローテーション早くするとか、そういう一つの、あるいは車の持ち出しとか、そういうもの

についても自衛隊の協力をお願いしながら、町独自の取り組みをしようと今しているところでありまして、とにかく避難住民のいろんな要望についてはいち早くこれをほかの町におくれとらないようなそういう形で、富岡町に帰れるようなそういう体制をつくるような取り組みをしようとしておりますが、何せ情報が的確にスムーズに入ってこなかったというのが今までの状況であります。

どうかそういう意味で、きょうの特別委員会は後で全協に切りかえるというふう聞いておりますけれども、いろんな面で皆さん方のご意見とご指導をいただきながら、ともども避難住民の安堵感と、あるいは明るい希望を持てるような、そういう特別委員会と全員協議会にいただければ大変ありがたいと思いますので、よろしくようお願い申し上げまして、あいさつといたします。よろしくお願い申し上げます。

○委員長（渡辺起代一君） はい、ありがとうございました。

ただいま町長よりごあいさつありましたが、このことに対して何か聞いてみたいことがありましたらば。ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（渡辺起代一君） ないですね。

それでは、付議事件に入ります。

1 番、原子力発電所に関する特別委員会における権限を東日本大震災に限り全員協議会に一任することについてを議題といたします。

本件につきましては、議長よりご説明をいただきたいと思います。

議長。

○議長（猪狩利衛君） それでは、私のほうから説明を申し上げたいと思います。

我が議会におきましては、これまで原子力に関しましては、原子力安全特別委員会というような形で審議をさせていただいておったわけでございます。今回のこの3月の大事故は、私から今さら申すまでもないわけでありまして、非常に我が町にとりまして本当に存続をかけるような大きな事故になったわけでございます。

そのような中で、避難を繰り返し、いろいろとこの避難の説得までには非常に2カ月以上もかかったというような状況であります。そういうような状況を踏まえて、

私も議員も各県外にも、あるいはほとんどの議員が県外に行っているということもありますし、さらには体調を崩された議員も数名ございます。こういうような状況の中で、これらの今後の対応に対向していくのには、やはりこの特別委員会以上の富岡町議会という議会そのものが一丸となって対応をしていこうかと、このような考えになったわけでございます。

過般議会運営委員会を開きまして、その旨議長の諮問をいたしましたところ、この委員会におきましてもそのようにすることがいいであろうという結論になりました。いずれにしましても、定例会で決定しておる、条例で決定して特別委員会でありますので、それにかわる今全員協議会もその正式な委員会ということで認められております。そういう中で、全員の了解を得られる、多数の了解を得られれば、それは可能であるというような県の指導もいただきましたので、そのような形に今後は富岡町議会としてこの原子力の特別災害に限って対応していきたいと、このように考え、お手元に実はご提案を申し上げたわけでございますので、よろしくご協力をお願い申し上げたいと思います。

以上です。

○委員長（渡辺起代一君） 説明が終わりましたので、これより質疑に入ります。

11番。

○11番（渡辺三男君） 今、議長の説明で内容的にはわかったのですが、本来原子力発電所に関する特別委員会、今当委員会に付託というより、この委員会が所管する問題が山積みにあるわけです。そういう中でこれを全員協議会、議会のほうに全部付託してくれというその意味合い私わからないのです。といいますのは、富岡町議会は議長を除くあとの全員が原子力特別委員会のメンバーなのです。そういう中で、わざわざこの原発特別委員会というものがあるのにもかかわらず、その権限というより、そこに付託しないで全員協議会でやりましょうということは、私ちょっと理解できないのですが、原発特別委員会のほうが重いのかなと私は思うのですが、その辺の、何でこういうふうになったかと。先ほど議長も特別委員会でやるよりは全員協議会、議員全員でやりましょうということがありましたが、特別委員会も議員全員でやっているのです。その中身ちょっと理解できないのですが、その辺もう

一度お聞かせください。

○委員長（渡辺起代一君） 議長。

○議長（猪狩利衛君） 渡辺三男議員のおっしゃるとおり、話は十分わかるわけでございます。先ほどの説明の中でも申しましたとおり、いろいろと急遽の対応、あるいは議員にも体調を崩された方も二、三人おります。そういうことも含め、やはり特別委員会、この限ってということですから、これについては非常に詳細な言葉でいろいろと執行部との協議も必要になってきます。そうしますと、一々委員長あるいは委員会の皆さん方とご協議をしなければならないというような状況もあります。そういう形で、そういう意味でやはり全員で当たっておるからこそ私はそれでもいいのかなと思いましたがけれども、体調を崩されておるといふ議員が二、三人出ているということと、やっぱり常に執行部との横のつながりを持っていなければならないというようなことで、常時やっぱりできればこの役場の周辺にいていただかなければならないような状況にもなっておりますので、いろいろの面で富岡町議会ということであれば、どっちが重いとか軽いとかではないのですが、そのほうがスムーズにこの問題に対して対応できるのかなと、このような考えのもとに私が議運のほうに諮問をいたしましたわけでありまして、その辺を十分ご理解いただきたいというふうに思います。

以上です。

○委員長（渡辺起代一君） 11番。

○11番（渡辺三男君） 議長の言っていることはわかるのですが、原子力特別委員会というものをわざわざ特別委員会今までつくって、私議員になってからずっとやってくるのです。それで、そういうその特別委員会に諮問しなくてはならないいろんな問題が山積み到现在状況としてあるのです。ある中で、では特別委員会を外れてみんなでやりましょうと。最初からつくらなければよかったでしょう、こんなもの。私はそう思うのです。

○委員長（渡辺起代一君） 議長。

○議長（猪狩利衛君） だから、何回も言うようですけども、私らの特別委員会はそのための特別委員会だと思うのです。原子力の事故のための特別委員会だと私



も認識はしております。しかしながら、今回に限っては、何回も繰り返すようですが、いろいろと執行部との横の調整から、もろもろの問題が重なっていると、必要になっておるといようなこと、あるいは皆さんなかなか集まるのにも大変な状況の中でもあったわけでありまして、それは大分緩和をされてきましたけれども、いろいろの面でやっぱり富岡町議会となれば特別委員会と同じなのです、名称を変えたって。このやっぱり有利性というのは、常に執行部との横の連絡がとれるというところと、あるいは場合によっては議員の皆さんですから、いろいろご都合あって欠席される方もございますし、また特別委員会も場合によってはいろいろと、同じような文句になってしまうのですけれども、そのほうが私はこの案件についてはやれるし、さらに力を出せるのではないのかというふうに考えてこのようにご提案をいたしましたわけで、同じような答弁で甚だ恐縮でございますが、多分そのようなことでありますので、ご理解いただきたいと思います。

○委員長（渡辺起代一君） 11番。

○11番（渡辺三男君） 同じような質問内容になってしまうのですが、当然議会人として議長から招集されれば我々来なくてはならないし、各所管の委員長から招集されれば来なくてはならない。特別委員会の委員長から招集されれば来なくてはならない。委員全部そういう頭はもう持っていると思うのです。今までの状況だって、集められた案件に対しては、皆さん東京にしようが、どこにしようが、駆けつけてきているはずなのです。それで、各常任委員長とか、特別委員長が役場の近くにいてもらわないと困るというのであれば、そういうものをきちっと議長から言葉で発信してくればいいことであって、何でもこうやって重要な山積みになっている特別委員会に付託しなくてはならない、一応調査しなくてはならない、いろんな問題が山積みになっているときに、原子力特別委員会からこういう問題を取り上げて議長をトップにしてやりましょうかと言っているのであれば、最初からこんな特別委員会要らないでしょうと言っているの、私。

○委員長（渡辺起代一君） 議長。

○議長（猪狩利衛君） これ何回も言うようですが、委員長、これは全くそのとおりなのです。だけれども、今回の問題は本当に富岡町に対して、またあの地区につ

いて、原子力について、何と申しましょうか、最大の類のない大きな事故であるというようにことでありまして、できるだけ全議員で私どもも執行部と協力してやっていきたいと、そのような考えのもとにこういう考え、また議運に出したわけですが、いずれにしても特別委員会でやっても、全員協議会でやっても、この重みというのは私は変わりはないと思うのです、全員ですから。むしろ富岡町議会ですから、要望書出すにも何にしてみても富岡町議会として対外的に対応しておるというのは、私から言わなくてもわかっておるとおりでありまして、だからそれを東京電力事故があつて重要な問題があると。それは全員協議会というか、それでその都度同じ審議ができるわけですから、一時この問題については議会で全員で対応していくというようなことは、私はご理解いただけるものとご提案したわけでございます。同じ答弁になりますので、この辺で終わりたいと思います。

○委員長（渡辺起代一君） 5 番。

○5 番（宮本皓一君） 議長、今話聞いていると、この前5月10日の全員協議会の午後に懇談会ということで食事しながら、議員控室みたいな場所で話したときに私がきり出したのです。こういう重大な事故が起きているのに全員協議会云々ではなくて、原子力発電所に関する特別委員会というものがあるのに1回も開催されないというのはどういうことなのだと。そして、その答えが原子力発電所に関する特別委員会で対応するのには軽いから、だから議会でみんなして対応したほうが重きがあるのだよということをそのときに議長ははっきり言いましたよね。今話したのでは、その重き云々に関しては関係ないけれどもというような話だけれども、関係なければ原子力発電所に対する特別委員会のほうがマスコミだって関心持っていると思います。富岡町の全員協議会がこういうことを話しているなんていうよりは、この原子力に関する特別委員会がちょいちょい開かれてしかるべきだと思うのです。一応この辺に対しても、ちょっとここまで延々と開かなかったということに対しては、委員長、ちょっとこの時期を逸してしまったのではないかなというふうには感じているのですが、議長、そういうことだと思うのですが、いかがですか。

○委員長（渡辺起代一君） 議長。

○議長（猪狩利衛君） 確かにそれもあります。しかし、皆さんご承知のとおり、

大体50日ぐらいはそういう開ける状況ではなかったのです。町民の避難対策で執行部と議会が一緒になって、そしてその避難対策に当たったというのが現実であります。その後、4月中旬を過ぎてからこれ落ちついて、ある程度町民が落ちついてきたなというようなことで全員協議会を招集したというのが現実でありまして、あの状況を見れば皆さん理解できると思うのです。あなたの言うことは、本当に川内なのか、富岡なのか、あるいは浪江なのか、何だかわからない人のところに、あのビッグパレットに3,000人近い人が避難したいのです。あるいは、田村郡から県内、県外にまで町民が散らばったと。ああいうような状況の中で、特別委員会開いたり、議会開いたりできますか。本当に一部の人だと思うのです。その辺の判断は、私は誤りでなかったというふうに考えております。

そして、この間全員協議会のときに、皆さん方に申し上げましたが、そういうことでこれから一つの議会としてそれをやっていこうと。どっちが重いとはないと申すのです、私は特別委員会とかなんとかというの。名称的にはですよ。ただ、仕事は富岡町議会というものを一つになってやるということは、むしろ私は大事な事かなと、このように私は考えております。いろいろ考えがあろうと思いますが、いずれ時間の関係もありますので、同じ意見ならばご理解を賜りたい。その他の意見があればこれは別としまして。

○委員長（渡辺起代一君） 5番。

○5番（宮本皓一君） 今議長お話、言葉を返すようですが、5月の10日に全員協議会、その前に議運を招集するような、3,000人の避難民がいたからとか、そんなのは理由になりますか。議員はたった16名です。16名連絡して、出席できない人はいつだって出席できないのでしょうか。これは、議長、ちょっとおかしいと思います。それこういう事件が起きて、やる気であればそれから10日までだってできます。そういう避難に対するほうに方向が向いてしまって、こっち、こういう事故に対する方向に目が向かなかったというのが事実ではないのですか。そんな答弁ではおかしいですよ、議長。

○委員長（渡辺起代一君） 議長。

○議長（猪狩利衛君） また同じようなことになると思いますが、あなたはそう思

ったかもしれませんが、だから郡内の議会でも本当に始まったのが4月の末。そのころが初めて議員を集めたというのが状況です。それだけやっぱり郡内未曾有、やっぱり原子力の爆発というそのうわさ、できるだけ遠くに避難しようというような心境が多かったと思うのです。確かに声をかければ集まっていたかたかもしれませんが、そのような状況ではなかったということです。ただ議員だけ集まっても、執行部もある程度は対応していただかなければなりませんので、執行部と相談して何でもやらないと、これは委員会は成立しないわけでありますから、そういうことなどを含めてやはりこれはある程度鎮静化して落ちついてからやったほうがいいというような結論の中にああいうふうになったわけでありまして、決して現在の原発委員長判断がおくれたとか、議長の判断がおくれたとかと、そういうことではなく、私はあの状況では、あと会場だってないのです。本当に会場そのものも、このピックパレットだってA、B、Cとありますけれども、Cのホールというのはほとんど使われる。あと、Bがつい最近あの避難者が3階から落ちてくるようになって、それも地震の被害で使えなかったというような状況で、本当に場所もなし、こういうような状況の形で会議をできるならいいのですが、とりあえず落ちついた気持ちの中で会議ができなかったというようなこと、そういうことも含めて、執行部もなかなかそれらの、そうすると今度50人少ないので、臨時職員をお願いして対応しておるようですが、あの当時は本当に何だかんだもなかったというふうに、職員などを見ていますと夜も寝ないでやっていたというのが本当に職員の姿であって、私は高く評価をしておりますが、そういう状況で、決しておくれをとったみたいのことでなくて、東京のほうの関係官庁にもいち早く全議員でいろいろ要望活動をやってまいりました。各大臣にも、担当大臣にも親しく時間を延長して状況を、真実を訴えてきました。これまで何もやらないわけではないのです。いろいろ状況を踏まえて対応してきたというふうに、私はむしろ自負をしております。

以上です。

○委員長（渡辺起代一君）　5番。

○5番（宮本皓一君）　私も国会のほうの陳情等々には行きました。やっぱりあの時点でもう既に原子力発電所に関する特別委員会というのをやるべきでした。だっ

て、こうやって避難までさせられているだけの大きな事件に遭っていて、それに対して何ら手を打たないというやり方ないでしょう。これ今議長は全員協議会にしたほうが重きがあるというようなことなのですが、原子力発電所に関する特別委員会って何だったのかなというふうに感じますよ、それでは。実際に軽いとか重いとかという話が10日の懇談会の席であって、どういう形でもいいからとにかく原子力発電所に関する特別委員会開いたほうがいいよという私提言したのですが、ちょっと全員協議会にこれ付託したほうが、一任したほうが重きがあるというのであれば、それでもやむを得ないのかなと思いますが、この開会時期等については全く残念ではありません。委員長、何か答えることがあったら教えてください。

○委員長（渡辺起代一君） 9番。

○9番（堀川一也君） 関連で意見を申し上げますが、5番さん、11番さんの意見は通常であればもっともだと思います。もっともなのですが、今3月11日以降は非常時なので、例えば議会の議題にしてもほとんど原発に関する議題しかないのです。もしくはそれに関係した予算とか、それに関係した条例の改正案とか、結局重きをなすのが原発に関する議案が多いということと、それからその意見、それに関してやっぱり意見の取りまとめがやっぱり急がれる。合意形成を早くしないといけないということも含めて、例えば原対を開いて、諮問して、答申して、それを受けて議会を開くもしくは全協を開いて意見をまとめてというふうな形よりは、一発で済むというような形も考えられる。それから、町と議会がやっぱり今回3月11日以降は、従来の両輪で議会はチェック機能を働かせねばいけないなというレベルではなくて、やっぱりもう町も議会も関係なく、一緒だと思うのです、そんな言い方失礼ですが。議会の権限なんていう言葉はやっぱり少し我慢して、もしくは議会と町部局が意見が異なる場合はやっぱり町を立てるしかないような状況だと思うのです。それにはやっぱり県とか国へレベルアップしなければならないわけです。例えば原対ですと4町協議会というのがありますが、法的には何ら意味がなくて、陳情さえできないわけです。そうなりますと、結局は議長会なり、町村会なりに諮ってもらう必要もあるし、そのことにやっぱりやってもらうにはなるべく簡単にこの議会を盛り上げていったほうがいいと思うので、非常時なので、ぜひ私は全員協議会に原対の

権限をある程度一任してもらうようなこの形がいいかと思うのです。

以上であります。

○委員長（渡辺起代一君） 13番。

○13番（三瓶一郎君） 皆さんそれぞれ言いたいことはたくさんあるのだろうと思うのです。だけれども、私はさっきから議長の答弁を聞いておりますけれども、この際議長の手法についてどうのこうのとやかく言うのではなくて、やっぱりこれはこれで全議員がまとまって前に進む方向を議論したほうが私はいいと思うのです。どうですか。

○委員長（渡辺起代一君） 11番。

○11番（渡辺三男君） 今、議運の委員長が言ったことは十分わかるのです。ただ、私も原対の特別委員会が5人とか6人でやっているのなら、全議員で当たるのが当然ですから、それもいいとするのですが、議長を除く全員でやっていながら何でここに来て原子力特別委員会を、特別委員会でやらなくてはならない問題がぶら下がっているのにもかかわらず、この問題は全員協議会でやりましょうといって移行するのですか。いや、原対の特別委員会をなくすのであればそれは構わないです。今までやってきて、何にもないときにはやってきて、安全、安心だといって皆さんでやってきて、安全、安心だけでないですから。やっぱり有事の際にはどうする、こうする、避難訓練やった、何やった、かにやったといって、もう原対もいろいろあるわけですから、今の4町協議会なんて、4町協議会云々は別の話だと思うのです。富岡町議会の中での問題ですから、これはやっぱり当然考えるべきであって、原対の特別委員長が余り重いからこれは議長に権限任せますよという申し入れでもあるのであればそれは別だと思いますが、その辺が理解できないのです。

○委員長（渡辺起代一君） 議長。

○議長（猪狩利衛君） 同じ答弁になりますけれども、私はどちらか重いとか軽いつかないのです。だから、そこスピーディーにやっていくためには、執行部と常にやっぱり議長はおりますから、そういう状況を議員に通達をしたり、これは委員会必要だなという判断のときはある程度委員長に相談をしたり、そういうものも含めてこの難局は一丸となって乗り込んでいくというような考えのもとにやると。特別

委員会はもちろんこれまでもやっていましたし、また収束して正常になれば特別委員会はそのまま継続するということでもありますんで、あえてそこは私はこだわる必要はないのではないのかと。やはりいい方法で、やっぱり町民の一日でも早く安心、少しでも安心させるような対応ができる、そういう議会になるのであれば、私は名目についてはおかしいこともないです。これ安全、全員協議会という、ややもすると昔からこれずっと法的な機会でなかったわけです。ただみんなの調整のための会だったのです。それが一昨年から正式に法で認められたこの委員会になったわけでありまして、だから全員協議会というやや軽く見られてしまうのですけれども、決してそうではない。本当に具体的にいろいろと話のできる全員の間であるというふうにご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○委員長（渡辺起代一君） 2 番。

○2 番（中野正幸君） ただいま議長より説明があったのですが、一応原子力発電所に対する特別委員会等と、我々頭の中で今回こういう未曾有の状態において、私この特別委員会においてはもう論議することなど、調査とかして結論が出る、できる問題ではないと思うのです。もうこれは、国では特別調査委員会というやつをつくっているのをやっているわけで、今回の本当の事件が東日本大震災、現在この津波に遭った、地震に遭った、それからみんな仮設に入った、住宅関係、補償問題、就職問題、この辺まで全部我々議会として議論しなくてはならないところだと思うのです。その辺でやはり特別委員会、原子力関係だけではなくて、やはり地震、津波、それに対する被害を受けたみんなの、町民の就職問題とか補償金問題、その辺はやっぱり限って議論しなくてはならないと思いますので、まず全員協議会のほうに移してもらったほうが、じかに、スムーズに話が進むのではないかと思います。

以上です。

○委員長（渡辺起代一君） 議長。

○議長（猪狩利衛君） ちょっと一言だけ言わせてください。自分は、これ特別委員会ではやりましたけれども、特別はやりましたけれども、この原発の問題だけではないです、今度は。地震から津波からいろんな問題が絡まってまいります。こうい

う状況を……

○5番（宮本皓一君） 議長、それは違う。そんなこと言ったら、それは全員協議会で幾らでもできるのだ。原子力発電所に関するものは原子力発電所、ここの、そんなこと言ったら譲らないぞ、おれは。そんな話ではないのだ。横暴だ、考え方が。2番委員だって飛躍し過ぎている。そんな災害のことなら全員協議会で幾らでもしゃべられるだろう。原子力発電所に関するものだからやっているのだろう。何考えているのだ。

○委員長（渡辺起代一君） 9番。

○9番（堀川一也君） 話はわかりますけれども、非常時なので、結局議会の議題も原子力発電所特別委員会の議題に似たようなものなのです。そして、国の施策がすべて都道府県知事、市町村長なのです、権限が。そのためにはレベルアップ、県への陳情、国への陳情という形で行っても、やっぱり議会で取りまとめた意見はどうしても町長を後押しするような意見にしなければならないのです、どうしてもこれ非常時ですから。町長はそれをもって、県なり、立地4町なり、それから双葉郡の町村会なりをもって、県にアタックしたり、国にアタックするわけですから、なるべく議会は簡素化していきましよう。そうしないとやっていけないですから。ですから、皆さんの気持ちはわかりますが、これはもう会議は2回ではなくて1回が良いです。ですから、その辺意見はわかるのですが、ぜひこういう形にすることについて私は賛成したいと思います。

〔「議事進行」と言う人あり〕

○委員長（渡辺起代一君） ないですね、質問。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（渡辺起代一君） 先ほど何か私にも質問あったようですが、私のことで申しわけありませんが、近くへいなかったものですから、災害で。そういう機会を持てなかったことについては、大変申しわけなかったと思います。あるいは、そのときには私ばかりでなくて、全員が皆さん災害に対する思いのほうを優先させていたと思いますが、本当に委員会を開けなかったのは、でも開けてもなかなかいい結果は出なかったのではないのかなと。だったら今回議会として、町として、町長と



して、議長、議会として前向きに、いい方向に進んでいてもらいたいと、こんなふうに思ったものですから、私としては町と一緒に進むために、委員会でも別に進めないことはないのですが、議会として、ですから全員協議会にしても進む道は議会をして進むということを前提として、私はこの問題については提案することについて決心したわけでありますので、ご了解いただきたいと思います。以上です。

皆さんからないですか。

〔「議事進行」と言う人あり〕

○委員長（渡辺起代一君） では、ないようでありますので、採決してよろしいですね。

〔「採決するの、これ」と言う人あり〕

○委員長（渡辺起代一君） 委員会だもの採決する。

〔「異議ありませんでいいでしょう」と言う人あり〕

○委員長（渡辺起代一君） 本案につきましてご異議ございませんか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○委員長（渡辺起代一君） 異議なしということで、本案は提案どおり決することに決まりました。

以上で1番については終わります。

次に、2番、その他につきまして議題といたします。

〔「なし」と言う人あり〕

○委員長（渡辺起代一君） 事務局ありませんか。

○事務局長（角 政実君） 質疑なしということでございますが、私のほうからちょっとこれからの工程についてちょっとお話しさせていただきたいと思います。

原子力発電所に関する特別委員会終了後、直ちに全員協議会をこの場で開会させていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○委員長（渡辺起代一君） 以上をもって原子力発電所に関する特別委員会を閉会いたします。

閉 会 （午前10時51分）